

# 学術メディアセンターだより

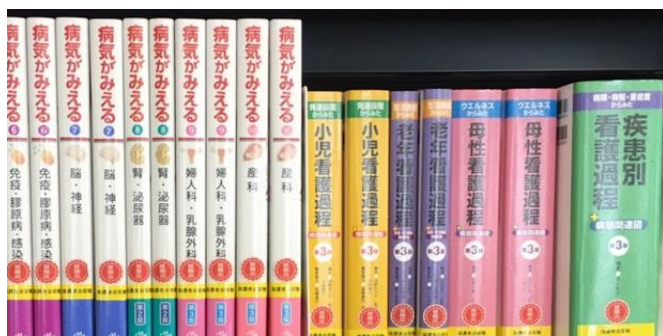


学術メディアセンターだより 3号 通巻 56 巻 2017 年 6 月(夏号)  
順天堂大学 医療看護学部 学術メディアセンター運営委員会  
〒279-0023 千葉県浦安市高洲 2-5-1 Tel. 047-355-3111

皆さん、こんにちは。いよいよ本格的な夏が近づいてきますが、いかがお過ごしでしょうか？今回は、有名だけどじっくり読んだことはないと思われる日本の名作文学と夏にぴったりのホラー小説を紹介していきます！ぜひ手にとってみてください！

## TOPICS

1. 寄贈本、読書スポットの紹介
2. 意外と読んだことのない?!  
日本の名作文学
3. 背筋が凍りつくホラー小説



## 保護者会から図書が寄贈されました！

学術メディアセンターの2階に配架されています。  
『病気がみえるシリーズ (vol.1~10)』と『看護過程+病態関連図シリーズ』がそれぞれ2冊ずつあります。  
いずれも学生には人気の本であり、実習でも役立つことでしょう。貸出禁止なので、コピーをするなどして利用してください。

## キャンパス内の読書スポット

今年度よりキャンパス内の至る所にテーブルと椅子が設置されました。昼食で利用することが多いかと思いますが、読書や勉強に適した場所をピックアップしてみました。ぜひ参考にしてみてください！



## 学術メディアセンター2階 移動書架の奥



静かな個別ブースで集中できます

## B棟2階 ベランダ



気持ちのいい風に吹かれます

## A棟2階 ロッカー室に 繋がる渡り廊下



外を見渡しながらか読書できます

## 中庭のベンチ



自然光を浴びながら  
読書をしてみませんか？

# 意外と読んだことのない?! 名作文学

名作文学の作品名は知っているけど読んだこと無い…なんてことはありませんか？名作文学は、私たちに何を語りかけているのでしょうか。いろんな経験を経てその時々で違う感じ方ができるのが文学作品です。今回は、本の紹介だけでなく、著者にまつわるエピソードも載せてみました。

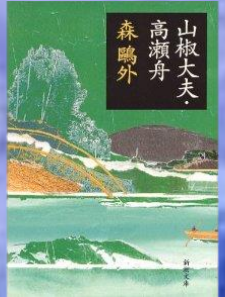
読んだことがある人はもう一度、読んだことがない人はぜひ読んでみて下さい！



Kirinuke  
Kirinuke

## 「高瀬舟」 森鷗外（新潮社）

弟殺しの罪人として島流しにされた喜助と、それを護送する同心の男の会話から始まる。自殺を図ったが死にきれず、苦しんだ末に楽にしてほしいと頼んだ弟。その思いを汲み取り、弟の命を終わらせた兄。果たして、弟を苦しみから解放しようとした喜助は罪人といえるのだろうか。これは、医師である森鷗外ならではの作品である。作中で、鷗外は喜助の罪について明確な結論を出していない。私は、喜助が弟殺しの罪で罰せられるのは重いのではないかと思う。あなたなら、どのように喜助を裁きますか？



### 鷗外は潔癖症だった !?

鷗外は 22 歳のときに、軍医としてドイツに留学して実験衛生学を学び、その後、細菌について衛生試験所で研究に従事していた。細菌学を学んだ鷗外は、なまものに対して極度の警戒心をもつようになり、果物も野菜も決して生では食べないほどの、極端な潔癖症となった。

鷗外にとって理想の食べものは“蒸かした饅頭” 鷗外は、真っ白なご飯の上に饅頭をのせ、煎茶をかけた「饅頭茶漬け」を好んで食べていたという。

## 「草枕」 夏目漱石（小学館）

「智に働けば〜とかく人の世は住みにくい」というフレーズを聞いたことはないだろうか？実はこの本の冒頭の文章である。主人公は、自分が本当に描きたいものを求めて旅する 1 人の画家だ。訪れた宿で出会う不思議な女性とのやりとりを通して自分は何を絵画に求めているのかを見つけていく。物語に登場する風景や食べ物、着物の描写はとても美しく表現され、立体的に浮かび上がってくるような感じがする。また、この本はこの世への皮肉や詩人、画家のあり方を独特の表現で読者に訴えかけている。

読み進めていくと現代の社会と重なり、とても共感できる一冊である。



Kirinuke  
Kirinuke

### 漱石の親友

漱石の大親友は正岡子規。お互い落語好きだったのがきっかけで親しくなったという。「漱石」という名前は、子規の数あるペンネームの 1 つであったと言われている。

そんな 2 人は旅に出かけることも多く、道後温泉や房総などへ行ったとされる。お互いを尊敬合い、交友関係は子規が亡くなるまで続いた。

### 漱石を救ったのは一匹の猫？

漱石は、留学中に心の病を患う。妻が献身的に支えるも状態は良くなりず、夫婦仲も冷え切っていく…。そんな時に現れたのが一匹の野良猫だった。

猫は漱石に懐き、次第に漱石も明るさを取り戻し、家族とも上手くいくようになる。その頃に書かれたのが「吾輩は猫である」だ。猫がいなければ名作も生まれなかった!?





### 「人間失格」 太宰治（集英社）

この作品は事実そのままの私小説ではないが、自身の人生を強く反映した自伝的小説である。

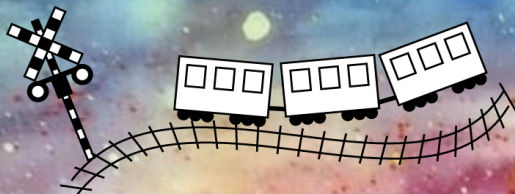
主人公の大庭葉蔵は、幼い頃から人間が何を考えているのかが分からず、道化(わざとドジに振る舞うこと)でしか人と関わることができなかった。そんな葉蔵の性格が、のちに大人になってからの女性問題の原因となってしまう。

今回読んでみて、あまりにも壮絶すぎる葉蔵の人生に頭を追いつかせるのが大変だった。私はこの作品を読んで、人前で本当の自分を出せずにいることがとても恐ろしく感じた。ずっと自分を隠しているのは疲れてしまうし、本当の自分を見失ってしまう。この作品は私に、ありのままの自分であることの大切さを教えてくれた。

### 太宰の原点は芥川龍之介

太宰は芥川龍之介を敬愛していた。芥川を思うあまり、中高時代に使っていたノートに何度も「芥川龍之介」と書いてあったり、芥川の顔の似顔絵を描いたり、さらには写真を撮るときポーズまで真似ていたという。そのため、太宰の高校時代に起きた、芥川龍之介の自殺に深く衝撃を受ける。

大学卒業後、自分を書き残すことに希望を感じた太宰は、死を意識した遺書としての小説を書き始めた。人気作家として多忙を極め、破滅と絶望の生活の中での「生」を描いた「ヴィヨンの妻」に続き、「斜陽」を発表する。しかしその後、太宰の体は過労と飲酒によって衰弱はひどくなり、「人間失格」を総決算に、川に身を投げ38歳で命を絶った。



### 「銀河鉄道の夜」 宮沢賢治（新潮社）

宮沢賢治と言ったら多くの人がまず最初にこの本を思い浮かぶだろう。いじめられっ子のジョバンニは病気がちの母親の牛乳を手に入れるために牧場へ行くが、野原で眠ってしまい夢を見る。その夢が物語の大半を占めることとなる。夢の中でジョバンニが銀河鉄道に乗り、親友カムパネルラや乗車してくる様々な人々と触れ合っていく。

死後の世界や人間の生き様が星座を通して丁寧に描かれた、美しく儂い作品だ。ジョバンニがなぜ親友と旅をする夢を見たのか、次々と出会う人々の存在の意味を知った時、心にぐっと来るものがあるだろう。



### 賢治は多才だった！?

実家は質屋だったが、貧しい人々を相手に儲ける家業を恥ずかしく思う。次第に農業に興味を持つようになり、高校卒業後農学校へ進む。そこで賢治は親友と出会うが、2人の関係からジョバンニとカムパネルラが生み出されたとされている。

大学卒業後は、農学校で教職に就く傍ら、文学活動の他にも音楽活動にも力を注いだ。実際、賢治はオルガンとセロを弾いて、演劇や音楽などを教育の一環として取り入れていた。1924年に出版した「春と修羅」と「注文の多い料理店」はその頃全く売れなかったため、賢治自身がその大半を買い取り、生徒たちに配ったとされている。

賢治はもともと身体が弱かったが、肺炎の療養生活中に「雨ニモマケズ」を書きまとめた。しかしその5年後に37歳という若さで亡くなった。

# ～背筋が凍りつくホラー小説～

暑い夏は、背筋をゾクゾクさせるホラー小説で涼しくなりませんか？今回はオススメのホラー小説を4冊集めました。中にはタイトルや表紙から怖い感じが伝わるものもありますね…。ホラー小説を読んでこの夏を乗り切りましょう…。

## 「向日葵の咲かない夏」道尾秀介（新潮社）



小学3年生のミチオは夏休み前日、欠席したクラスメイトのS君に宿題を届けに行く。しかし、そこにいたのは首を吊って死んでいるS君だった…。生まれ変わりミチオの前に現れたS君の発言から、妹のミカと共にS君を殺した犯人を捜す一夏の物語。

犯人らしき人物の家に忍び込むところでは何度も見つきりそうになり、ドキドキした。なぜS君は生まれ変わりミチオの前に現れたのか、最後に明かされる本当の理由にゾットした。

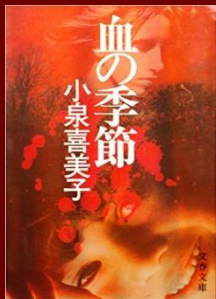
## 「よもつひらさか」今邑彩（集英社）

12編からなる短編小説。坂の名前である「よもつひらさか」で主人公がある男に会い、ストーリーが始まっていく。男は主人公との世間話の中で「よもつひらさか」の奇妙な噂を語り始める。その坂は現世と死後の世界との境界であった。話が進むにつれて、この坂の真実が見えてきて謎が解けていくドキドキ感がある。

短編で読みやすく、この夏奇妙な世界に浸りたい方は、ぜひ読んでみてほしい。



## 「血の季節」小泉喜美子（新潮社）



青山墓地で起きた幼女惨殺事件。その事件の犯人は普通の人間ではなかった。犯人が精神科医に話すことで明かされていく過去。そこから分かった「彼」の正体とは…。長い回想の途中で事件の捜査内容も併せて書かれていて、飽きることなく読み続けることができた。犯人の独白のようにしているので、恐怖を感じる。最後の最後まで謎と恐怖で目が離せない！！

## 「感染学校」西羽咲花月（スターツ出版）

ある日、愛莉の同級生が学校で飛び降り自殺をした。いじめがあったわけでもなく…、なんと原因は自殺・殺人衝動を引き起こす感染性のウイルスだった！ウイルスに感染されゾンビと化した生徒たちから逃げ惑う人々。愛も友情も裏切りも何もかもが恐怖と隣り合わせ。いつ現れるかわからないゾンビに怯えながらも大切な人を守ろうとする人たちの気持ちに切なさを感じる。最後に待ち受けている結末には思わず息を呑んだ。さまざまな恐怖を味わうことのできるお勧めの一冊。



## 編集後記

今回は、知っているようで知らない日本の名作やおススメのホラー小説を特集しました。夏休みなど時間がある時にぜひ読んでみてください。なかなか時間の取れない中、協力して作成したので、お手に取って読んで頂けると嬉しいです。

次回もご期待ください！